# 目標実現のために私たちができることは

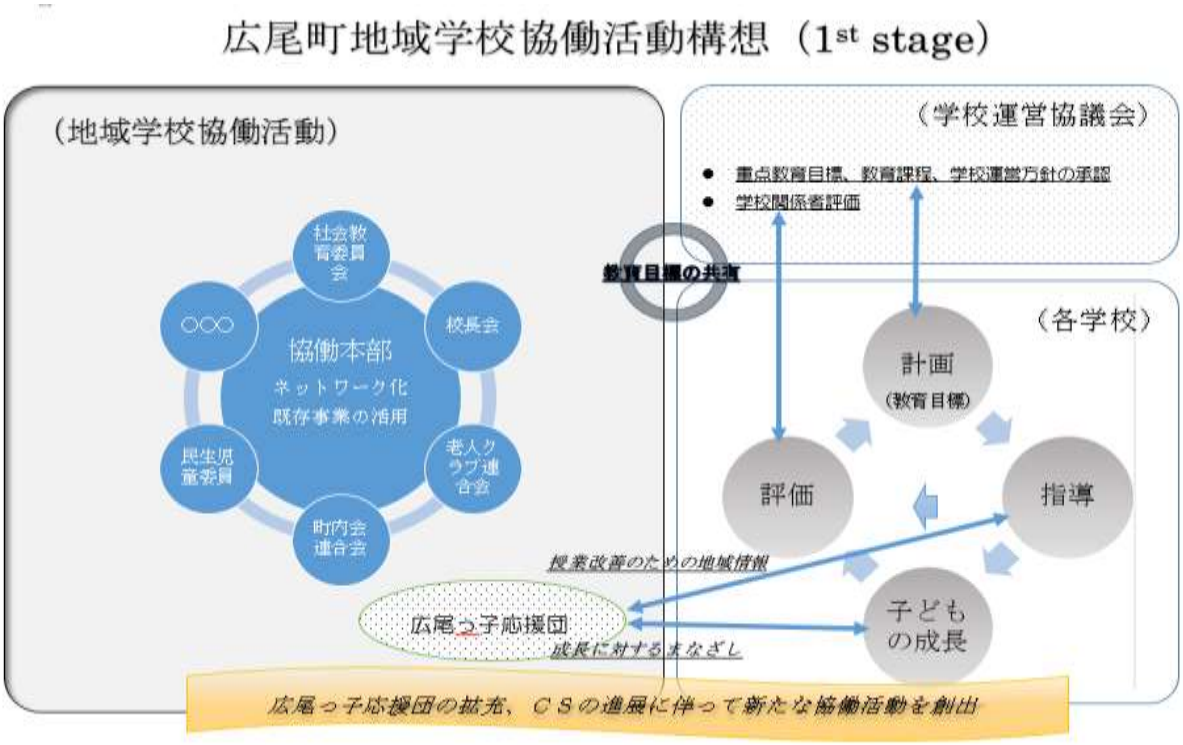
日　時　平成３０年１１月１日（木）
会　場　広尾町コミュニティセンター
参加者　６２名
内　容　①　教育委員会説明
　　②　説明・熟議　兵庫教育大学　日渡　円　教授

開会挨拶　菅原教育長

教育委員会説明を聴く参加者

## 広尾町が目指す地域学校協働活動＿教育委員会社会教育課長

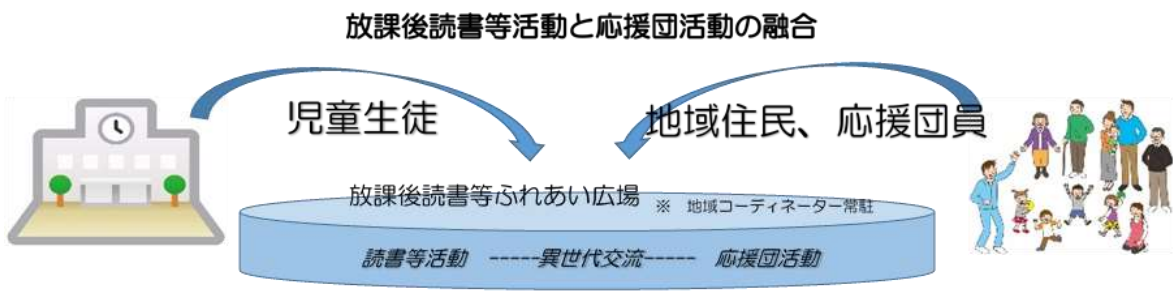
- 地域学校協働活動という言葉は平成２７年の中央教育審議会答申で登場し、この答申を受けて改正された社会教育法の中で規定された。
- 学齢期の児童生徒、青少年、成人を対象にした社会教育の様々な事業や活動の中で、地域住民と学校が協働して行う取組を地域学校協働活動という。
- ポイントは、学校と地域のベクトルが同じ方向を向いているかどうかである。
- 広尾町ではＣＳの導入によって、目指す子ども像や教育目標が共有され、それを目指した取組が学校、地域それぞれに多様に展開されることが期待される。
- これらの取組を持続的、安定的に行っていくことを、広尾町における地域学校協働活動と捉えて推進する。
- そのために（仮称）広尾町地域学校協働本部を設置し、学校運営協議会と連携して活動の基盤整備を行いたい。
- スタート時には、校長会、町内会連合会、老人クラブ連合会、社会教育委員、民生児童委員の代表の方などに構成メンバーになっていただき、すそ野を広げる取組に力を入れたい。
- 本部の取組として「応援メッセージ」「広尾っ子応援団登録制度」「放課後読書等ふれあい広場」をスタートさせる。




## 「応援メッセージ」「広尾っ子応援団登録制度」など＿ＣＳコーディネーター

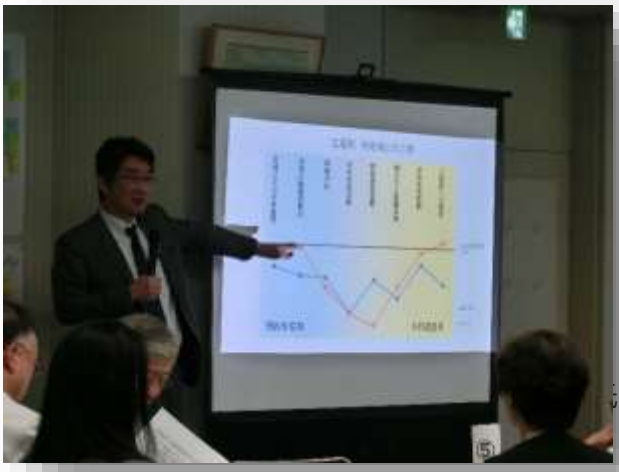
- 「広尾っ子応援団登録制度」を１２月からスタートさせる。応援団の登録要件は、①地域学校協働本部からの情報を受け取り、②可能な範囲で学校の先生方の授業づくりに役立つ地域の素材や人材を提供できること。③「応援メッセージ」を年１回届けることである。
- 「応援メッセージ」は、ＣＳのスタートに先駆けて新たに始める地域活動である。日ごろ見かけた広尾町の子どもたちの誇らしく感心した姿を、応援団の窓口（ＣＳコーディネーター）に届けてほしい。

- 以上の取組を「見える化」するため、「放課後読書等ふれあい広場」を構想している。
- 広場は、①子どもたちが地域の人と触れ合うことができ、②地域の方々は、今の子どもたちの様子を直接みることができ、③応援メッセージなど応援団の取組を集約して応援団の活動がわかるような場となるようにしたい。
- ふれあい広場の運営は放課後から１～２時間程度でＣＳコーディネーターが常駐することを計画している。



≪説明・熟議≫

# 調査結果の分析／実現のための方策



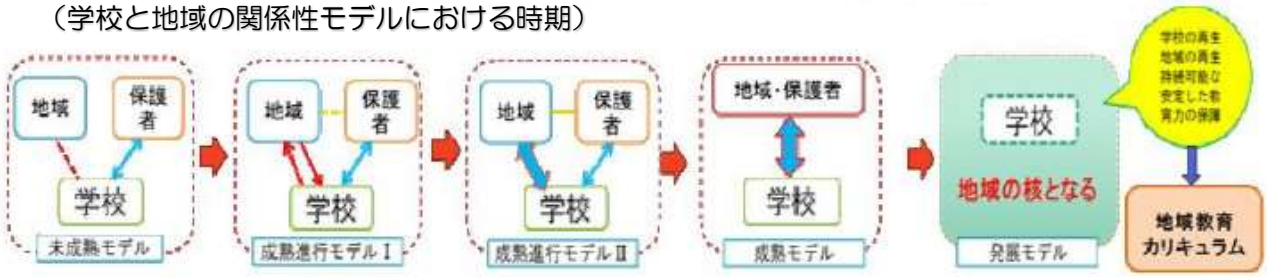
講師　日渡　円　氏

説明を聴く参加者

## 「関係性モデル」に基づく町民アンケートの分析結果＿兵庫教育大学　日渡　円　教授

- 地域・保護者・学校の三者関係の「成熟度」を、「関係形成期」から「共同運営期」に至る５段階のモデルを設定して分析。
- 広尾町は「未成熟モデル」段階から次の段階に移行し始めた状態。
- 「未成熟モデル」段階では、学校は保護者と結びついているが、地域とは結びつきが存在しないかあっても表面的。
- 広尾町は、ＣＳ導入の取組によって地域と学校が相互に意識をし始めた段階。
- 他地域との比較では、広尾町はいずれの観点でも平均以下。住民・教職員共に情報共有、学校地域活動、教育課程協働に顕著な課題。
- 地域側の回答者の多くが子育てが終わった高齢者が占めるという、特徴的な年齢分布が結果に影響を与えた可能性。一方、教職員側にはその要因はなく、今後の学校の在り方に一石を投じる結果。
- 広尾町はまずは情報共有に重点を置いて取り組むことが重要。

（学校と地域の関係性モデルにおける時期）



## 熟議「目標・ビジョンを実現するための方策」__兵庫教育大学　日渡　円　教授

- 地域における方策を検討したグループ～「ふるさと思いの子ども」を育てるための方策

  「地元の食材を使った料理教室」、「アウトドア教室の開催」、「地元の人の協力による体験」、「ちびっこ郷土史研究会」、「町史・年表を使った歴史講話」など

- 家庭における方策を検討したグループ～「会話」を豊かにするための方策

  「きちんと挨拶をする」、「今日あったことを話す」、「食事中はテレビを消す」、「共通の会話を見つける」、「挨拶運動」、「学校の話を聞く」、「朝の挨拶をさせる」など

- 学校における方策を検討したグループ～「自分の考えをしっかりもっている子」を育てるための方策

  「日ごろから自分の考えを発表する」、「委員会や行事の経験を増やす」、「ほめる、いろいろな人に声をかけてもらう」、「個別の目標を設定して成功体験を踏ませる」、「スモールステップで『出来た』を体験させる」など

- 日渡教授のコメント（抜粋）
  - 家庭でも、地域でも子どもたちに挨拶できるようさせたいと考えていることが今日の熟議でわかりました。保護者や地域の方々は、先生方が熱心に指導されている挨拶について、それは自分たちもやるべきことだと考えています。学校にとって心強いことだと思います。
  - 子どもの教育は家庭、地域、学校それぞれに役割があり特徴があります。学校の教育の特徴は意図的・計画的であるところです。目標を実現するために、内容を定め、方策を立てます。これがカリキュラムです。それに対し、家庭は意図的教育の場ではありません。
  - 学校は家庭や地域社会から様々なことが求められてきました。しかし、もう限界にきています。広尾町の皆さん、学校と同じ方向を向いて協働しませんか？共有した大目標を目指して、地域は地域の、家庭は家庭の取組を始めませんか？広尾町は既にその第１歩を踏み出しています。後戻りせず、一緒に前に進んでいきましょう！！

グループの熟議

前回の熟議の内容を確認する参加者

方策の発表

閉会挨拶　広尾中　加藤健一　校長